

## 第2章 ひたちなか市の現状

### 😊 1 人口の状況

#### (1) 人口・世帯数

本市の人口は、昭和40～50年代の急激な増加を経て、その後はゆるやかに増加してきましたが、平成24年をピークに減少傾向に転じており、10年前と比較すると約2,500人減少しています。その一方で、世帯数は約4,000世帯増加していることから、単身世帯の増加と核家族化が一段と進んでいることがうかがえます。

1世帯当たり人員の減少により、家庭での相互扶助機能や養育機能の低下といった世帯環境の変化が懸念されることから、これらの機能を地域で補い、維持していくことが求められています。

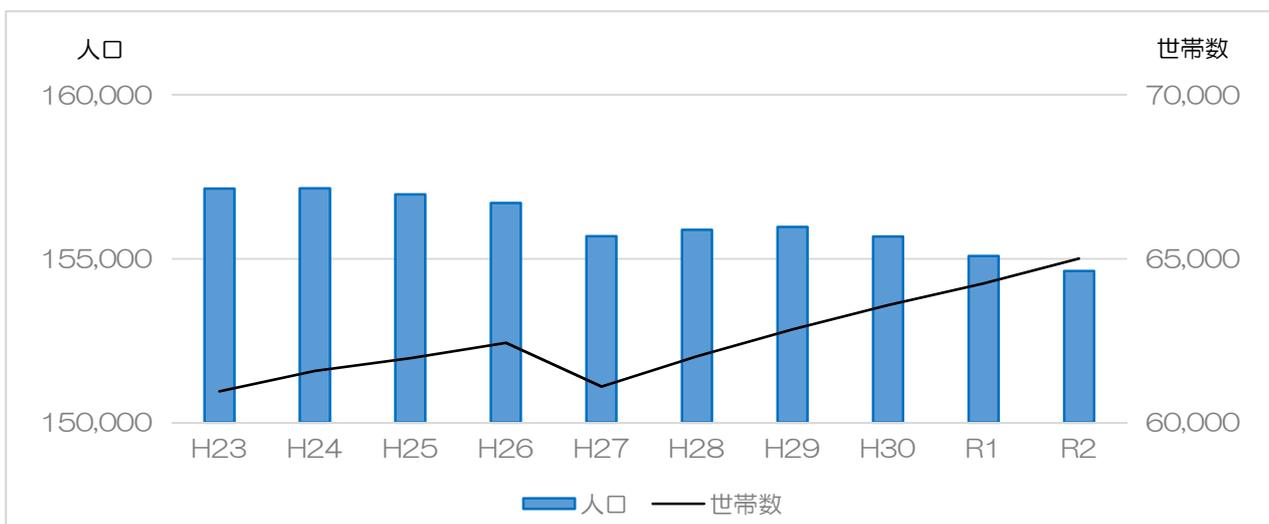
#### ■人口・世帯の推移

(人)

区分	H23	H24	H25	H26	H27
人口	157,141	157,153	156,964	156,704	155,689
世帯数	60,952	61,580	61,968	62,441	61,104
1世帯あたりの人員	2.58	2.55	2.53	2.51	2.51

区分	H28	H29	H30	R1	R2
人口	155,884	155,970	155,681	155,080	154,631
世帯数	62,024	62,846	63,584	64,245	65,003
1世帯あたりの人員	2.51	2.48	2.45	2.41	2.38

出典：茨城県常住人口調査（各年10月1日）

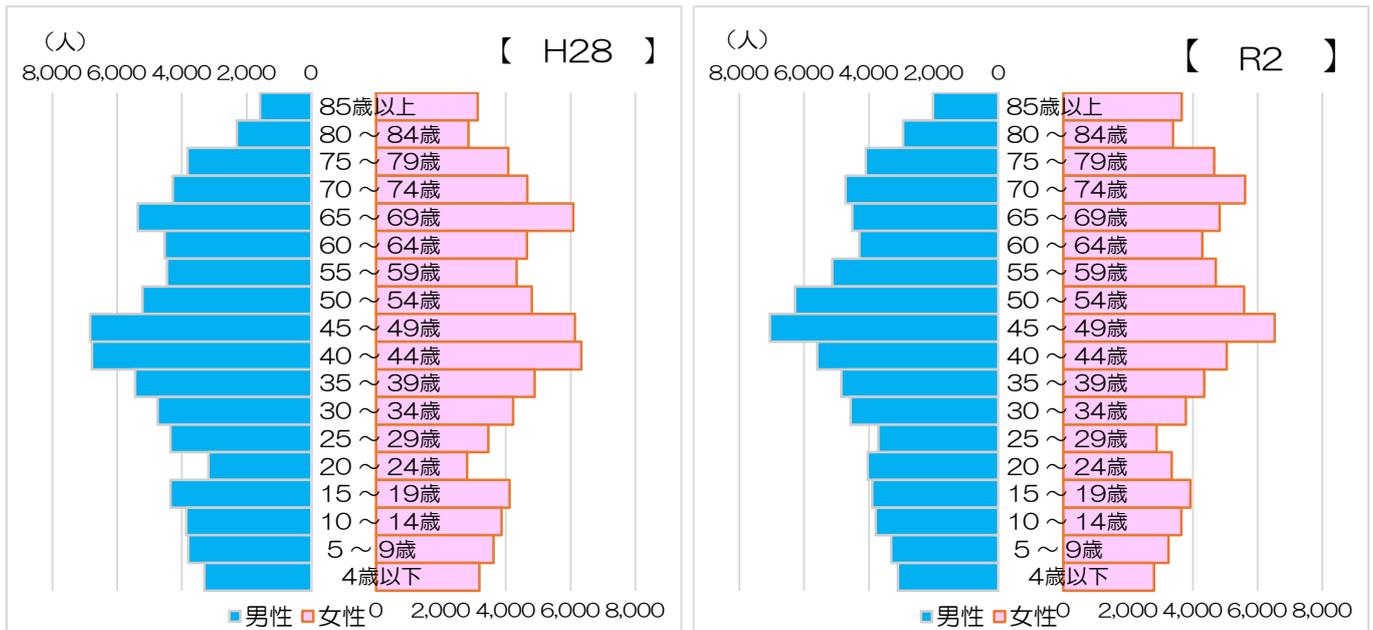


## (2) 年齢別構成（人口ピラミッド）

本市の令和3年3月時点での人口構成は、団塊の世代である70～74歳と、その子供たちの45歳～54歳の人口が多く分布しています。年少人口（0～14歳）は若くなるにつれて少なくなっており、将来の人口減少が予測されます。

一方で、平均寿命が延びていることから、65歳以上の高齢人口は年々増加していくことが見込まれています。

### ■人口ピラミッド



区分	男性		女性		合計	
	H28	R2	H28	R2	H28	R2
85歳以上	1,592	2,019	3,130	3,656	4,722	5,675
80～84歳	2,307	2,941	2,851	3,390	5,158	6,331
75～79歳	3,827	4,101	4,077	4,655	7,904	8,756
70～74歳	4,279	4,725	4,663	5,615	8,942	10,340
65～69歳	5,364	4,517	6,086	4,831	11,450	9,348
60～64歳	4,525	4,296	4,651	4,291	9,176	8,587
55～59歳	4,456	5,129	4,337	4,713	8,793	9,842
50～54歳	5,215	6,278	4,799	5,587	10,014	11,865
45～49歳	6,838	7,060	6,133	6,526	12,971	13,586
40～44歳	6,775	5,592	6,337	5,045	13,112	10,637
35～39歳	5,441	4,854	4,897	4,356	10,338	9,210
30～34歳	4,747	4,566	4,229	3,788	8,976	8,354
25～29歳	4,353	3,714	3,460	2,878	7,813	6,592
20～24歳	3,184	4,038	2,808	3,352	5,992	7,390
15～19歳	4,347	3,903	4,118	3,923	8,465	7,826
10～14歳	3,864	3,788	3,870	3,645	7,734	7,433
5～9歳	3,808	3,312	3,620	3,246	7,428	6,558
4歳以下	3,312	3,104	3,187	2,800	6,499	5,904

出典：茨城県常住人口調査（各年10月1日）

(3) 高齢化率

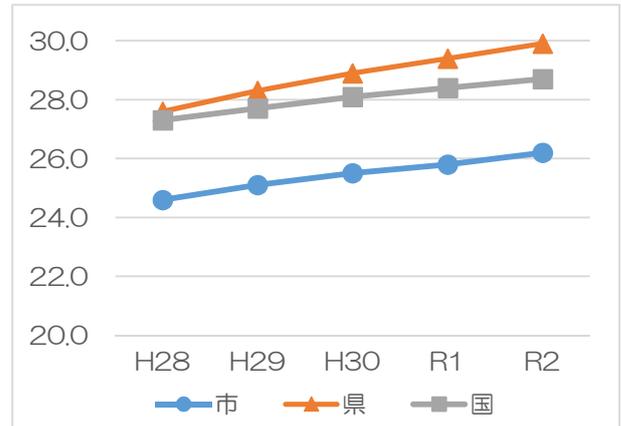
本市の高齢化率（65歳以上の高齢者人口の割合）は、国・県より低く推移しているものの、国・県同様に緩やかな増加傾向にあります。

高齢になってからも健康で暮らせる期間，すなわち健康寿命をいかに伸ばすかが大きな課題です。

■ 高齢化率

区分	H28	H29	H30	R1	R2
ひたちなか市	24.6	25.1	25.5	25.8	26.2
茨城県	27.6	28.3	28.9	29.4	29.9
国	27.3	27.7	28.1	28.4	28.7

出典：茨城県常住人口調査



(4) 出生・死亡

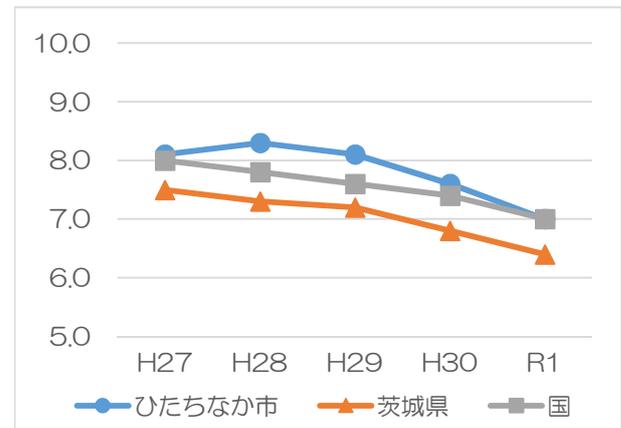
本市の出生率は減少傾向であり，特に近年は減少の幅が大きくなっています。死亡率については緩やかな増加傾向にありますが，国・県より低い水準が続いています。

■ 出生率と死亡率

【出生率】

区分	H27	H28	H29	H30	R1
ひたちなか市	8.1	8.3	8.1	7.6	7.0
茨城県	7.5	7.3	7.2	6.8	6.4
国	8.0	7.8	7.6	7.4	7.0

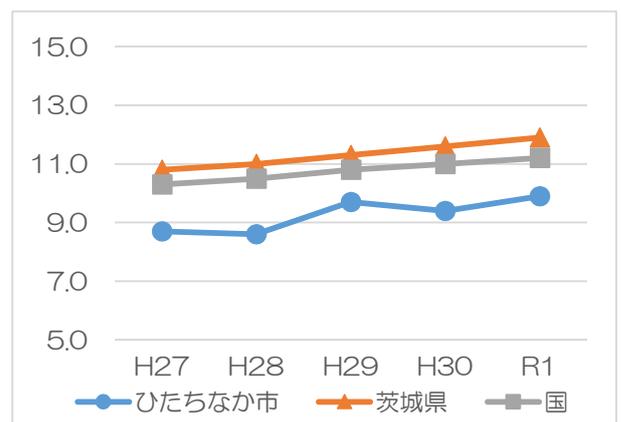
出典：茨城県人口動態統計



【死亡率】

区分	H27	H28	H29	H30	R1
ひたちなか市	8.7	8.6	9.7	9.4	9.9
茨城県	10.8	11.0	11.3	11.6	11.9
国	10.3	10.5	10.8	11.0	11.2

出典：茨城県人口動態統計





## 2 平均寿命と健康余命

### (1) 平均寿命・健康余命

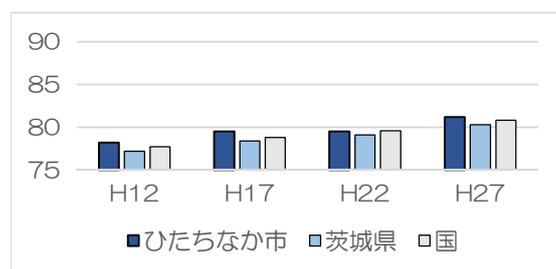
本市の平均寿命は、男性 81.2 歳、女性 86.4 歳となっています。平成 12 年以降、5 年毎に行われる国の調査において毎回延びており、今後も延びていくことが予測されます。

また、65 歳以上の高齢者が健康に過ごせる期間を表す健康余命は、令和元年で男性 18.35 年、女性 20.84 年となっています。

#### ■平均寿命

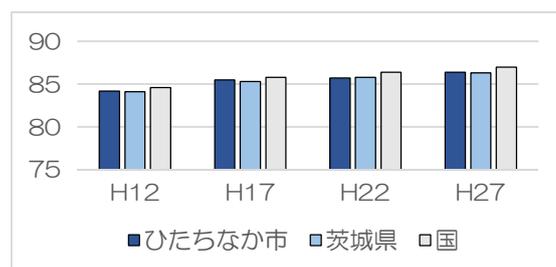
##### 【男性】 (歳)

区分	H12	H17	H22	H27
ひたちなか市	78.2	79.5	79.5	81.2
茨城県	77.2	78.4	79.1	80.3
国	77.7	78.8	79.6	80.8



##### 【女性】 (歳)

区分	H12	H17	H22	H27
ひたちなか市	84.2	85.5	85.7	86.4
茨城県	84.1	85.3	85.8	86.3
国	84.6	85.8	86.4	87.0

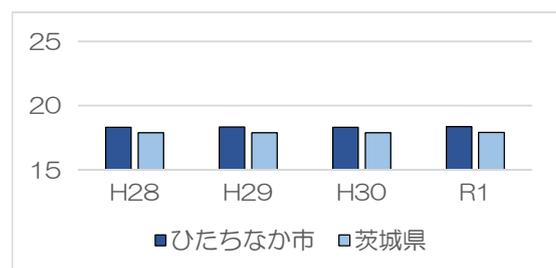


出典：厚生労働省 市区町村別生命表

#### ■健康余命

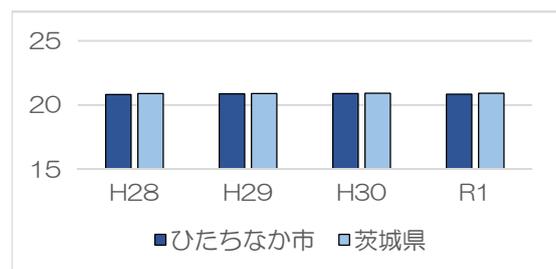
##### 【男性】 (年)

区分	H28	H29	H30	R1
ひたちなか市	18.30	18.34	18.32	18.35
茨城県	17.88	17.89	17.89	17.92



##### 【女性】 (年)

区分	H28	H29	H30	R1
ひたちなか市	20.81	20.85	20.89	20.84
茨城県	20.88	20.89	20.91	20.90



出典：茨城県立健康プラザ

「47 都道府県と茨城県 44 市町村の健康寿命（余命）に関する調査研究報告書」

### 3 疾病等の状況

#### (1) 死因別死亡者数と割合

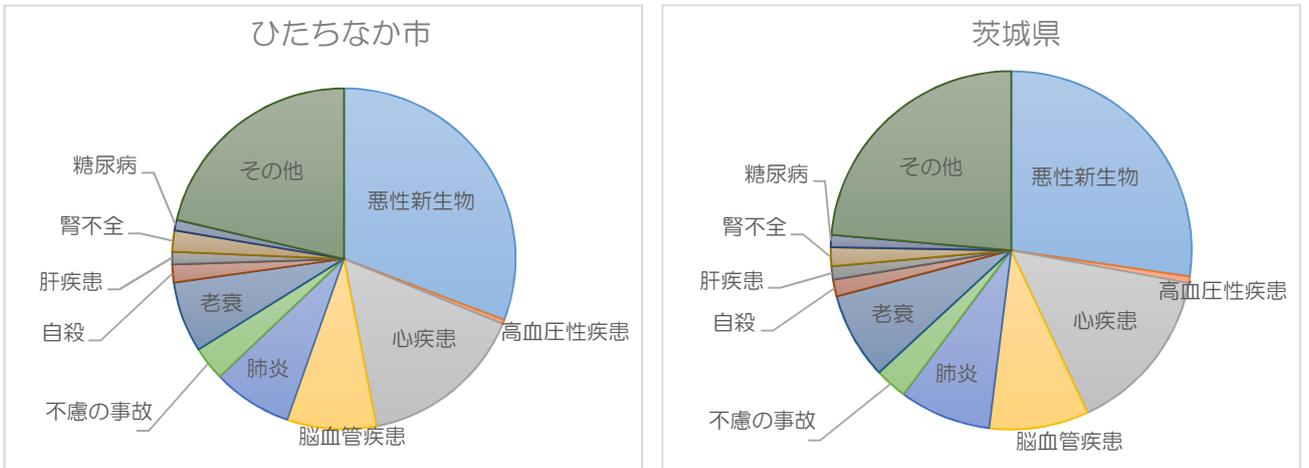
平成 30 年の死亡原因を見ると、市・県ともに悪性新生物・心疾患・脳血管疾患・肺炎が上位を占めており、本市では、それらの合計が 6 割を超える状況となっています。

年齢別の死亡状況を見ると、成人後期と呼ばれる 40～64 歳の死亡割合は、男性では 11.2%、女性では 7.4%となっています。

また、同年代の死亡原因（10 ページ）を見てみると、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病に次いで、自殺による死亡が多くなっています。このため、成人後期の死亡を抑制するために、生活習慣病の予防とこころの健康づくりが課題となります。

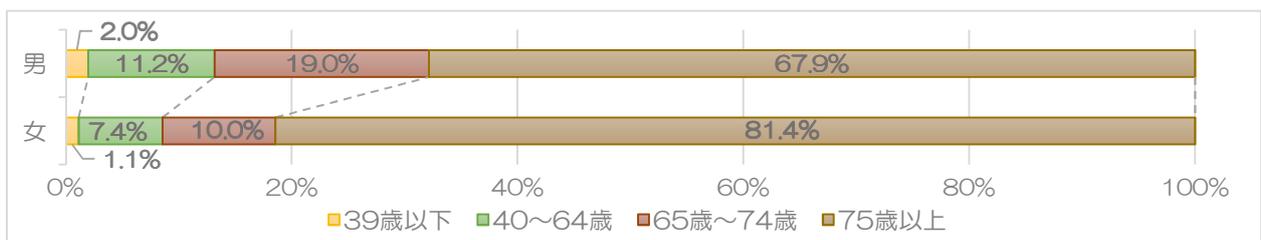
#### ■死因別死亡者割合（H30）

区分	悪性新生物	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	老衰	自殺	肝疾患	腎不全	糖尿病	その他
ひたちなか市	30.8	0.4	15.7	8.4	7.5	3.2	6.7	1.7	1.2	2.0	1.0	21.3
茨城県	27.3	0.6	15.1	8.9	8.2	2.9	7.8	1.5	1.2	1.7	1.1	23.6



出典：茨城県人口動態統計

#### ■男女別年齢別死亡割合（ひたちなか市）



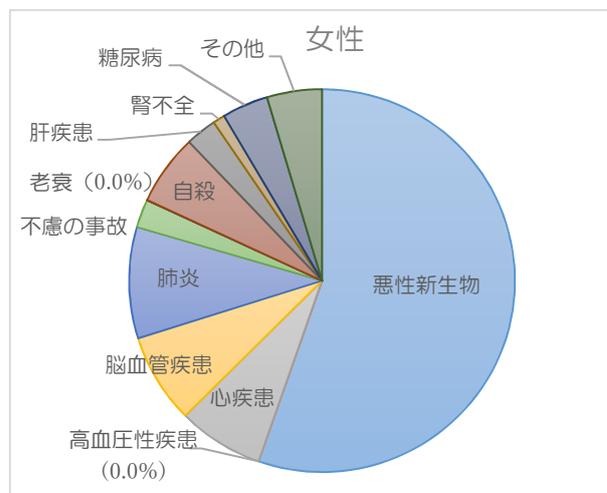
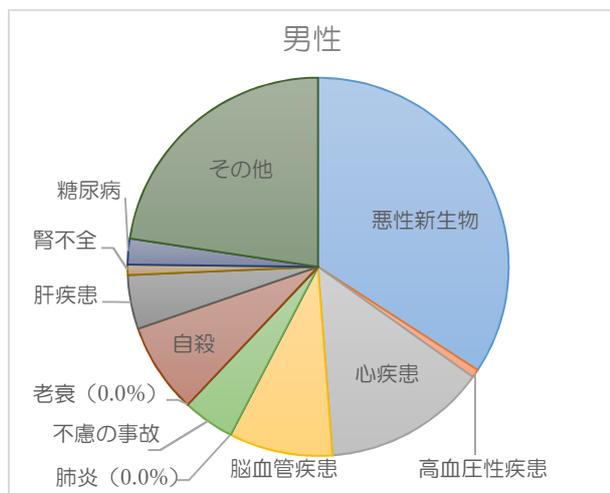
出典：茨城県人口動態統計

■成人後期（40～64 歳まで）の死因別死亡者割合（H30）

(%)

区分	悪性新生物	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	老衰	自殺	肝疾患	腎不全	糖尿病	その他
男性	34.2	0.7	13.9	8.8	0.0	4.4	0.0	7.7	4.6	0.9	2.2	22.6
女性	55.4	0.0	7.2	7.6	9.4	2.4	0.0	6.0	2.6	1.0	3.9	4.6

出典：茨城県保健福祉統計年報



■現在治療している疾病

今回実施した「健康づくりに関するアンケート」の結果と国民生活調査の結果を比較すると、選択された疾病について、おおよそ同じ傾向を示していることがわかります（11 ページ一覧表参照、複数回答可）。

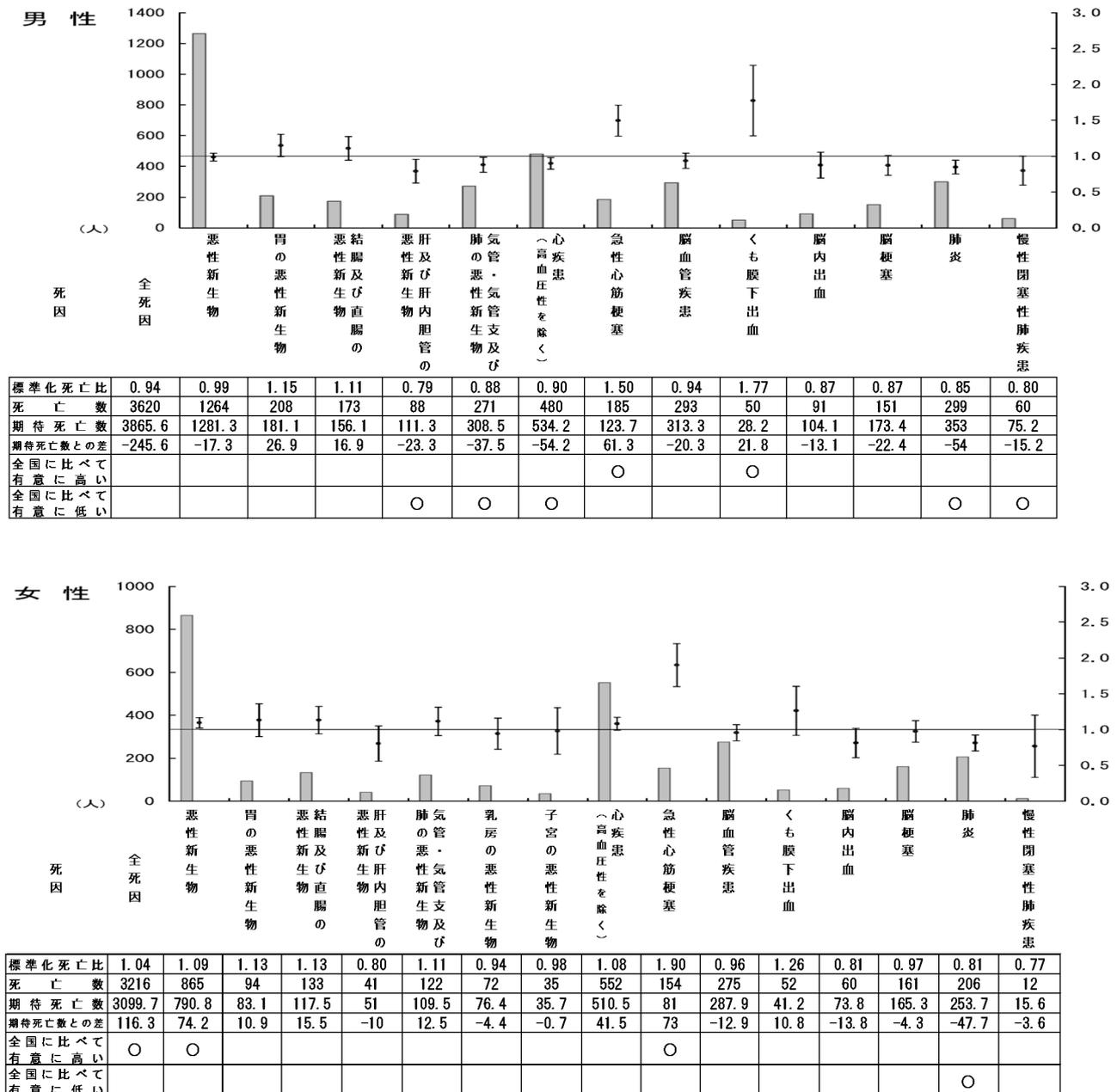
どちらの調査においても「糖尿病」、「脂質異常症（高コレステロール血症等）」、「眼の病気」、「高血圧症」、「歯の病気」、「腰痛症」の治療を受けている方が多くみられる状況となっています。

選択肢である疾病	健康づくりに関するアンケート	2019 国民生活調査	国民生活調査 との差
糖尿病	12.3%	13.1%	-0.8ポイント
肥満症	4.0%	1.2%	2.8ポイント
脂質異常症（高コレステロール血症 等）	16.0%	14.1%	1.9ポイント
甲状腺の病気	2.5%	3.4%	-0.9ポイント
うつ病やその他のこころの病気	3.9%	4.9%	-1.1ポイント
認知症	1.2%	1.6%	-0.4ポイント
パーキンソン病	0.4%	0.5%	-0.1ポイント
その他の神経の病気（神経痛・麻痺 等）	1.2%	1.7%	-0.5ポイント
眼の病気	15.5%	13.9%	1.6ポイント
耳の病気	3.5%	2.6%	1.0ポイント
高血圧症	34.2%	33.2%	0.9ポイント
脳卒中（脳出血・脳梗塞 等）	1.6%	2.9%	-1.3ポイント
狭心症・心筋梗塞	4.6%	4.7%	-0.2ポイント
その他の循環器系の病気	3.3%	4.6%	-1.3ポイント
急性鼻咽頭炎（かぜ）	0.5%	0.8%	-0.2ポイント
アレルギー性鼻炎	10.9%	5.0%	5.9ポイント
慢性閉塞性肺疾患（COPD）	0.4%	0.4%	-0.1ポイント
喘息	3.5%	2.9%	0.6ポイント
その他の呼吸器系の病気	3.0%	2.5%	0.5ポイント
胃・十二指腸の病気	3.5%	3.8%	-0.3ポイント
肝臓・胆のうの病気	1.8%	2.2%	-0.4ポイント
その他の消化器系の病気	2.5%	3.2%	-0.8ポイント
歯の病気	13.7%	13.3%	0.4ポイント
アトピー性皮膚炎	3.3%	2.0%	1.4ポイント
その他の皮膚の病気	4.2%	4.6%	-0.4ポイント
痛風	4.2%	2.7%	1.6ポイント
関節リウマチ	1.9%	1.9%	0.0ポイント
関節症	2.6%	5.4%	-2.8ポイント
肩こり症	8.5%	6.3%	2.1ポイント
腰痛症	13.2%	12.5%	0.7ポイント
骨粗しょう症	4.0%	4.9%	-0.9ポイント
腎臓の病気	1.9%	2.6%	-0.6ポイント
前立腺肥大症	4.0%	3.4%	0.6ポイント
閉経期又は閉経後障害（更年期障害 等）	1.4%	0.5%	0.9ポイント
骨折	0.9%	1.6%	-0.7ポイント
骨折以外のけが・やけど	0.7%	1.4%	-0.7ポイント
貧血・血液の病気	2.3%	1.6%	0.6ポイント
悪性新生物（がん）	3.0%	2.5%	0.5ポイント
妊娠・産褥（切迫流産・前置胎盤 等）	0.4%	0.3%	0.0ポイント
不妊症	1.6%	0.3%	1.3ポイント
その他	8.5%	6.0%	2.4ポイント
不明	1.6%	0.4%	1.2ポイント
不詳	—	0.6%	—

## (2) 標準化死亡比

本市では、男女ともに「急性心筋梗塞」の死亡率が、全国と比べて有意に高いとの結果が出ています。さらに、男性では「くも膜下出血」の割合、女性では「悪性新生物」の割合が全国と比べて有意に高い状況です。一方、男女とも、「肺炎」の死亡率が全国的に比べて有意に低く、さらに、男性では「肝及び肝内胆管悪性新生物」「気管・気管支及び肺の悪性新生物」「心疾患」「慢性閉塞性肺疾患」の割合が全国と比べて有意に低い状況です。

### ■標準化死亡比（H25～H29）



※標準化死亡比：基準死亡率（人口10万対の死亡数）を対象地域に当てはめた場合に計算により求められる期待される死亡数と実際に観察された死亡数との比較（国平均を1とし1以上の場合は国平均より死亡率が高い）。

出典：茨城県市町村別健康指標



## 4 特定健康診査・特定保健指導・各種がん検診の実施状況

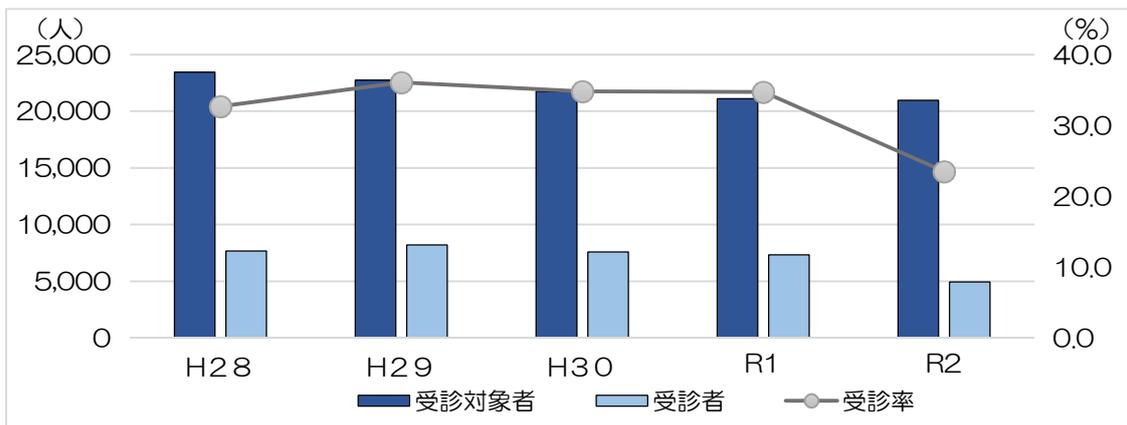
### (1) 特定健康診査

国民健康保険被保険者における特定健康診査の受診率は、30%超で推移していましたが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、23.5%と大きく低下しています。また、男女いずれも高齢者層において高い受診割合を示しています。

#### ■ 特定健康診査を受診する人と割合

区分		H28	H29	H30	R1	R2
特定健康診査	対象者	23,455	22,737	21,749	21,096	20,974
	受診者	7,672	8,199	7,573	7,320	4,924
	受診率	32.7%	36.1%	34.8%	34.7%	23.5%

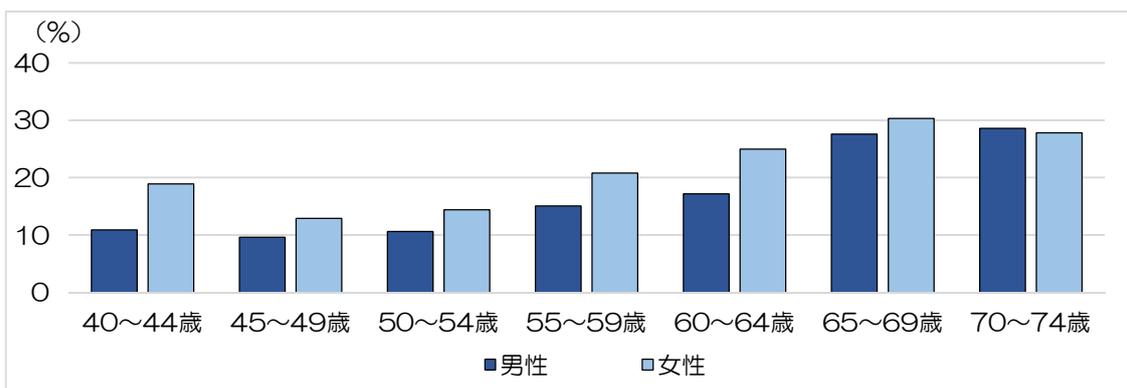
出典：保険と年金（市国保年金課）



#### ■ 性別、年代別受診割合 (R2 実績)

区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳
男性	10.9	9.6	10.6	15.1	17.2	27.6	28.6
女性	18.9	12.9	14.4	20.8	25	30.3	27.8

出典：茨城県市町村別健康指標



## (2) 特定保健指導

特定健康診査の結果に基づき、生活習慣病の発生病リスクが高い方に対して、保健師又は管理栄養士が食事や運動などの生活習慣の改善を支援しています。

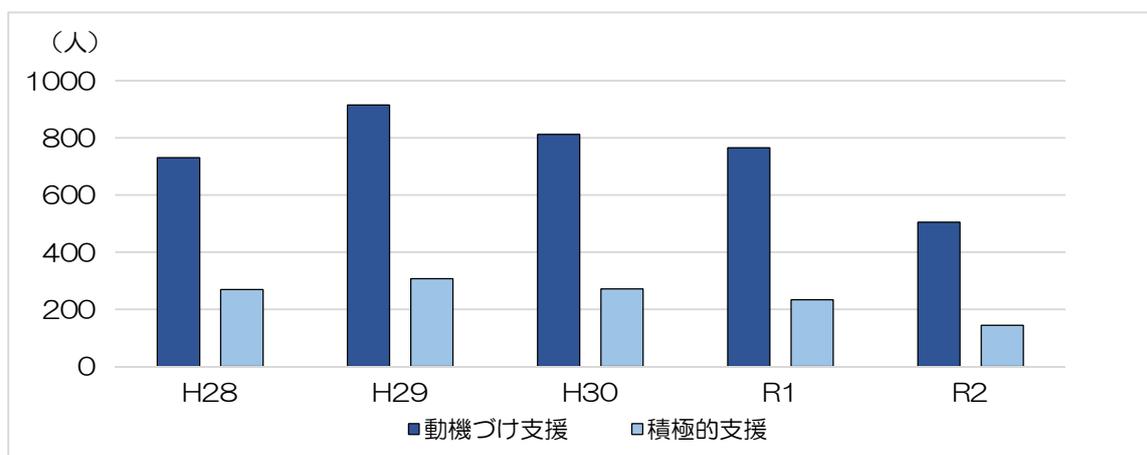
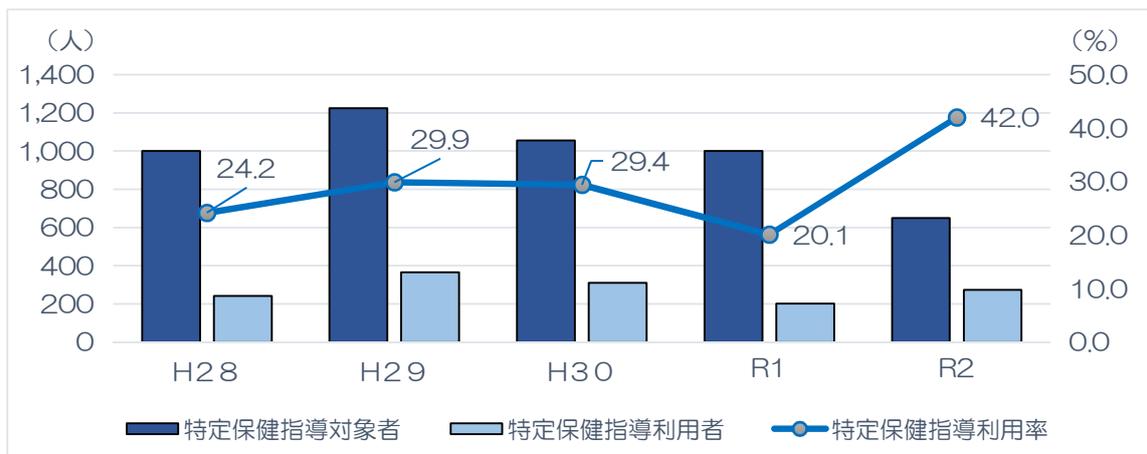
特定保健指導のレベルには「動機付け支援」と「積極的支援」があり、よりリスクの高い方が「積極的支援」となります。

### ■ 特定保健指導の実施状況

区分		H28	H29	H30	R1	R2
特定保健指導対象者		1,001	1,224	1,055	1,000	650
特定保健指導利用率		24.2	29.9	29.4	20.1	42.0
うち 動機づけ支援	対象者	731	916	813	766	505
	実施者	200	333	272	156	193
うち 積極的支援	対象者	270	308	242	234	145
	実施者	42	33	38	45	80

(人)

出典：保険と年金（市国保年金課）



(3) 各種がん検診

直近の5年間のうち、平成28年度から令和元年度までは受診者数と要精密検査者数に大きな増減はなく、ほぼ横ばいで推移しています。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、一時中止や再開後予約制としたため、過年度と比較して受診者が大きく減少しています。

また、要精密検査者について、結果通知及び勧奨後、精密検査を受診していない人が一定程度いることから、がんの早期発見・治療のためにも更なる働きかけが必要となります。

■がん検診受診状況

(人, %)

検診種別	受診状況等	H28	H29	H30	R1	R2
胃がん (集団・医療機関)	受診者	3,710	3,824	3,978	3,911	2,845
	要精密検査者	343	381	371	315	177
	精密検査受診者	315	342	344	283	168
	精密検査受診率	91.8	89.8	92.7	89.8	94.9
子宮がん 【頸部・体部】 (医療機関)	受診者	4,630	4,478	4,221	4,327	3,538
	要精密検査者	135	114	80	100	83
	精密検査受診者	123	107	76	78	79
	精密検査受診率	91.1	93.9	95.0	78.0	95.2
肺がん (集団・医療機関)	受診者	10,788	11,005	10,637	10,150	6,631
	要精密検査者	247	330	316	323	203
	精密検査受診者	213	288	260	280	165
	精密検査受診率	86.2	87.3	82.3	86.7	81.3
乳がん 【マンモグラフィ, 超音波・視触診】 (集団・医療機関)	受診者	4,247	4,098	4,017	4,261	2,785
	要精密検査者	134	137	129	135	80
	精密検査受診者	117	134	111	115	77
	精密検査受診率	87.3	97.8	86.0	85.2	96.3
大腸がん (集団・医療機関)	受診者	8,886	9,012	8,698	8,547	6,392
	要精密検査者	666	726	663	707	618
	精密検査受診者	513	557	401	396	460
	精密検査受診率	77.0	76.7	60.5	56.0	74.4
前立腺がん (集団・医療機関)	受診者	1,968	1,961	1,967	1,943	1,118
	要精密検査者	164	173	161	161	109
	精密検査受診者	124	135	130	108	91
	精密検査受診率	75.6	78.0	80.7	67.1	83.5

出典：ひたちなかの保健

## 5 要介護認定の状況

### (1) 要介護認定

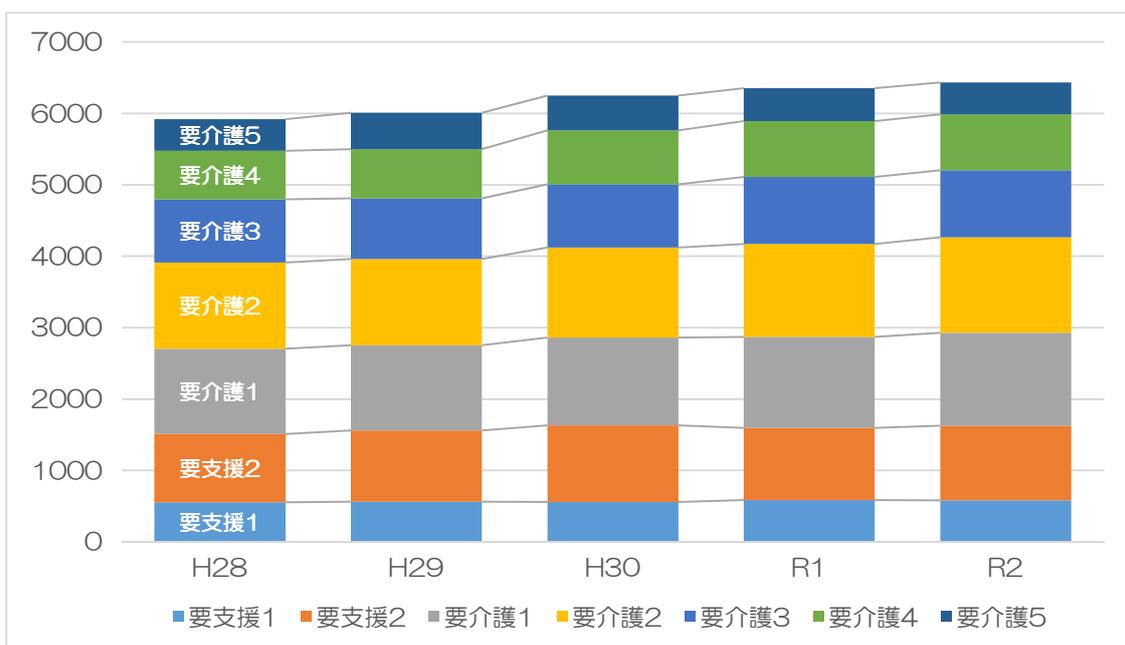
要支援・要介護認定者数は年々増加傾向にあり、令和3年3月末現在、第1号被保険者（65歳以上の方）のうち6,434人が認定を受けており、認定率は15.7%となっています。超高齢社会の到来により、今後も認定者数は増加していくものと考えられます。

要支援・要介護状態にならないために、市民自らが日頃の生活習慣を見直し、身体能力の低下を防ぐための適度な運動、定期的な健診の受診などに取り組む必要があります。

#### ■要介護度別介護保険認定者数（各年度末実績値）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
要支援1	552	561	558	586	583
要支援2	958	997	1,074	1,009	1,045
要介護1	1,194	1,198	1,229	1,273	1,298
要介護2	1,209	1,203	1,262	1,304	1,338
要介護3	884	851	885	936	942
要介護4	678	687	754	783	782
要介護5	442	511	486	462	446
合計	5,917	6,008	6,248	6,353	6,434
認定率	15.2%	15.1%	15.6%	15.6%	15.7%

出典：ひたちなかの福祉

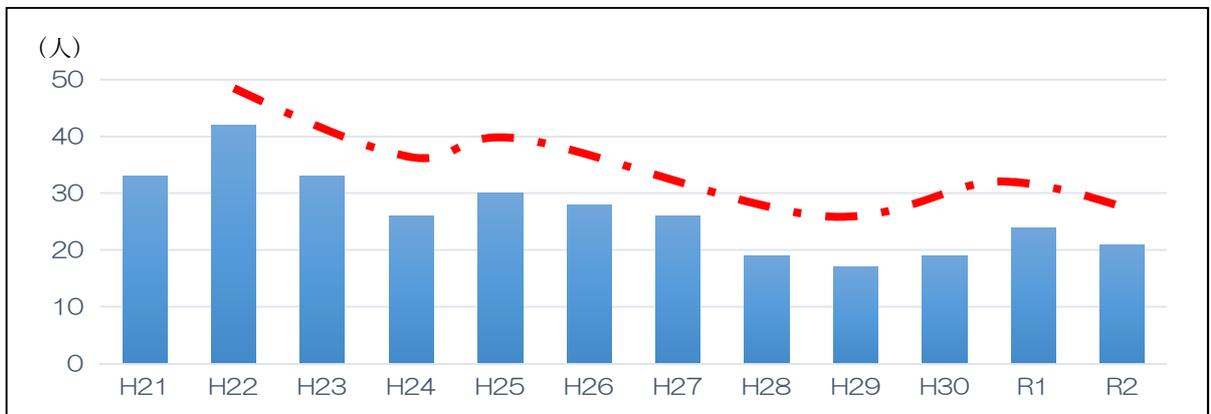


## 6 自殺者の状況

### (1) 自殺者数と自殺死亡率

わが国の年間自殺者数は、平成 10 年以降 3 万人を超え高い水準で推移した後、平成 22 年以降減少してきました。本市では、平成 22 年の 42 人をピークに減少傾向でしたが、平成 30 年以降、再び増加傾向となっています。

年	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
自殺者数	33	42	33	26	30	28	26	19	17	19	24	21

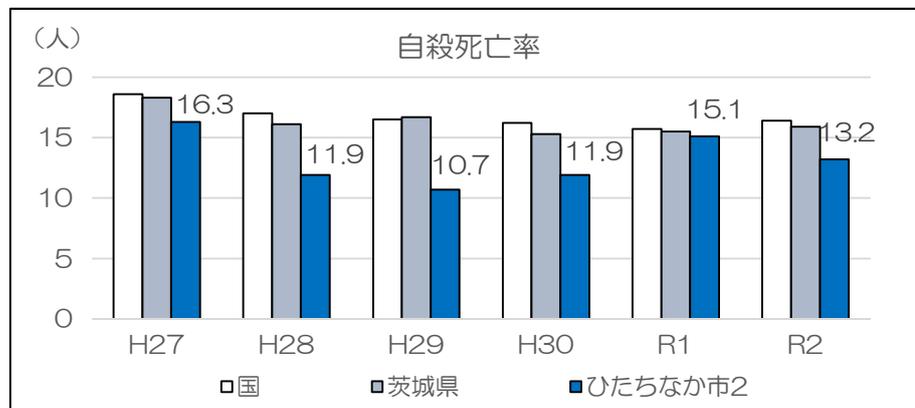


(自殺日・住居地)

本市の自殺死亡率は、これまで国・県と比べ、低い数値で推移しています。

年	H27	H28	H29	H30	R1	R2
ひたちなか市	16.3	11.9	10.7	11.9	15.1	13.2
茨城県	18.3	16.1	16.7	15.3	15.5	15.9
全国	18.6	17.0	16.5	16.2	15.7	16.4

自殺死亡率とは…  
人口 10 万人当たりの  
自殺による死亡者数



出典：厚生労働省 自殺の統計（地域における自殺の基礎資料）

## (2)「地域自殺実態プロファイル（2020）」おける分析

### ひとくちメモ

『地域自殺実態プロファイル』とは…

厚生労働省所管の自殺総合対策推進センターにおいて、全ての都道府県及び市町村それぞれの自殺の実態を分析し、毎年作成されるもので、分析結果を参考に各地域では自殺の実態把握と自殺対策計画の策定や取り組みを実施することとされています。

平成 28 年に改正された自殺対策基本法を踏まえ、平成 29 年に閣議決定された自殺総合対策大綱において、総合的な自殺対策を推進するために定められたものです。

本市の自殺の特徴として、自殺者に占める割合が最も高いのは、「男性・60 歳以上・無職・同居者有」の区分となっています。しかし、自殺死亡率（人口 10 万対）では、「男性・40～59 歳・無職・同居者有」が非常に高い割合となっています。その背景にある危機経路としては、職場の人間関係、配置転換、失業といった就労関係からうつ状態となり、自殺に至る経過が考えられます。

### ひたちなか市の自殺の特徴（H27～R1 年合計）

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位 男性 60 歳以上無職同居	11	10.5%	18.2	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位 男性 20～39 歳有職同居	10	9.5%	16.7	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
3位 女性 60 歳以上無職同居	10	9.5%	11.2	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位 男性 40～59 歳有職同居	9	8.6%	10.1	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
5位 男性 40～59 歳無職同居	8	7.6%	133.1	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺

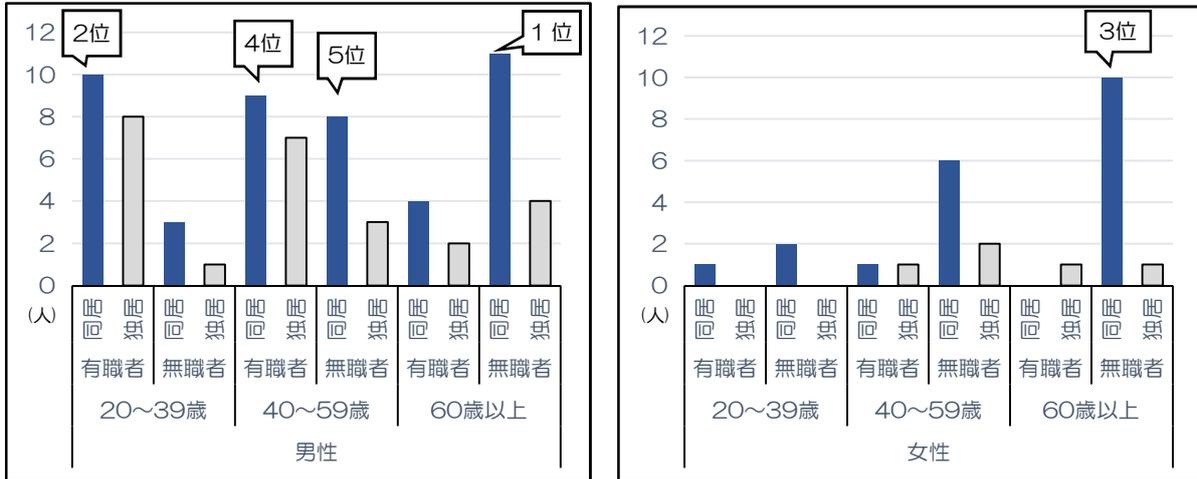
注：区分別の順位は自殺者数にもとづき、同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

\*自殺死亡率の母数(人口)は平成 27 年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

\*\*「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書 2013（ライフリンク）を参考にした。

同居人の有無、職業の有無、性別、年齢階層別に分けた場合、男性ではどの年代でも「同居有り」の方が多く、60歳以上では男女とも「無職同居人有り」が最も多くなっています。

ひたちなか市年齢別、職業・同居人の有無別自殺者数（H27～R1年合計）

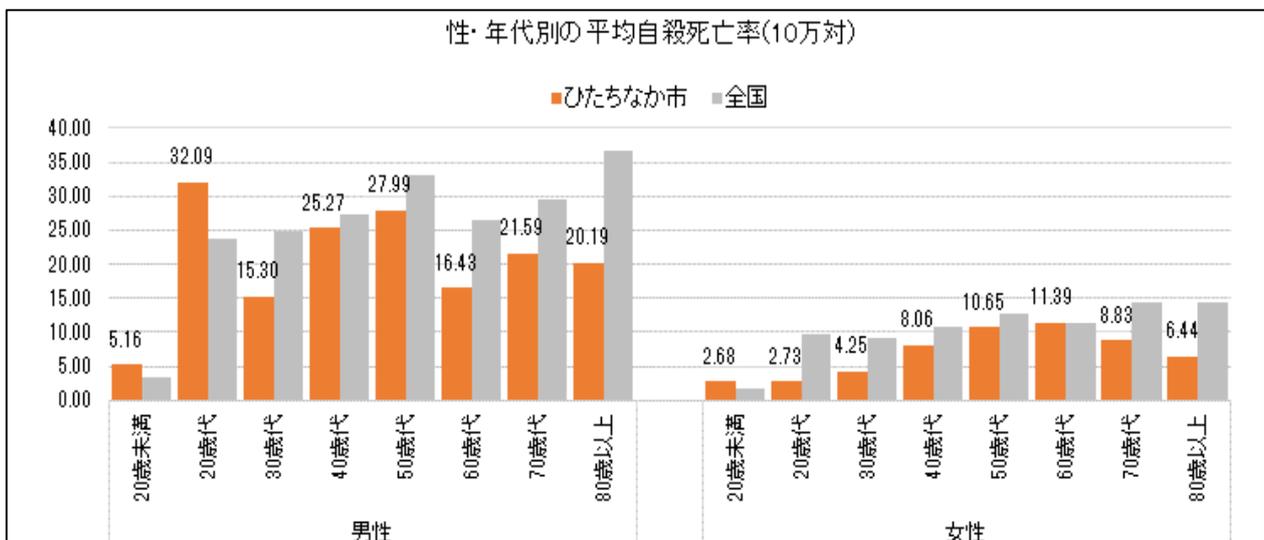


本市の5年間の平均自殺死亡率を男女別にみると、男性がすべての年代で、女性より高い値となっています。

男性においては20歳代が最も高く、次いで50歳代・40歳代となっています。

また、男性の20歳未満、20歳代、女性の20歳未満が全国平均を上回っています。

自殺者の性・年代別の平均自殺率（H27～R1年平均）





## 7 前計画の数値目標の達成状況

第2次ひたちなか市元気アッププランでは、「健康増進」と「食育」という2つの計画を一体的に推進していくなかで、7つの分野において23の指標と39の目標値を設定して取り組んできました。

達成状況としては、目標値を達成した指標が4、策定時より改善が図られた指標が7、策定時とほぼ横ばいの指標が15、数値が減退した指標が10となっています。

「健康管理」と「食の基礎」に関わる指標において改善があまり見られなかったことから、次期計画において、重点的な取り組みが必要となります。

### 【評価】

◎	目標値を達成
○	目標値は達成していないが、前期計画策定時より改善
△	前期計画策定時と変化がない（±3ポイント未満）
×	前期計画策定時より減退

- ・欄中に「※」のあるものは前年度の実績（H28（R3）現状値 → H27（R2）実績）
- ・未成年者の喫煙率については、アンケートの設問から除いています。
- ・欄中に「★」のあるものは、R3 現状値の把握にあたりサンプリング対象を変更しているため、評価の対象から除いています。

### ○健康増進計画

#### 【基本目標】

指標	H28 現状値	R3 現状値	目標値	評価
健康とを感じる市民の割合	74.1%	76.6%	85%以上	△

#### 【分野別目標】

分野	指標		H28 現状値	R3 現状値	目標値	評価
身体活動・運動	定期的に運動している人の割合	男性	42.9%	43.1%	50%以上	△
		女性	34.6%	35.3%	50%以上	△
休養・こころの健康	ストレスを感じている人の割合		75.5%	67.2%	60%以下	○
	睡眠で十分休養を取れる人の割合		59.2%	57.5%	70%以上	△
歯と口腔の健康	定期的に歯科検診を受診する人の割合		29.0%	34.7%	40%以上	○
	むし歯のない子どもの割合	3歳児健康診査	※ 81.9%	※ 87.8%	85%以上	◎ 実績による
	一人平均むし歯数	中学1年	※ 1.47歯	※ 1.10歯	1.0歯未満	○ 教育委員会調査より
	60代で自分の歯が24本以上ある人の割合		43.8%	35.7%	55%以上	×
	70・80代で自分の歯が20本以上ある人の割合		42.1%	51.4%	50%以上	◎
飲酒・喫煙	未成年者の喫煙率	高校生	2.1%	-	0%	-
	喫煙する人の割合	男性	26.2%	21.7%	23%以下	◎
		女性	8.9%	6.7%	6%以下	△
	多量に飲酒する人の割合	男性	27.5%	24.4%	20%以下	○
		女性	7.0%	7.4%	6%以下	△

分野	指標		H28 現状値	R3 現状値	目標値	評価		
健康管理	年1回程度健康診査を受診する人の割合	男性	65.4%	73.2%	80%以上	○		
		女性	58.2%	60.1%	70%以上	△		
	がん検診を受診する人の割合（市健診登録者中の受診者割合）	肺がん	※ 48.0%	※ 29.7%	現状値より10ポイント増	×	検診登録者の受診率	
		乳がん	※ 25.4%	※ 16.9%	現状値より10ポイント増	×	〃	
		胃がん	※ 26.4%	※ 16.5%	現状値より10ポイント増	×	〃	
		子宮がん	※ 32.6%	※ 21.2%	現状値より10ポイント増	×	〃	
		大腸がん	※ 43.5%	※ 29.5%	現状値より10ポイント増	×	〃	
	特定健診における特定保健指導を受ける人の割合		※ 23.1%	※ 42.0%	現状値以上	◎	実績による	
	肥満の子どもの割合	小学5年	男子	※ 12.8%	※ 16.0%	現状値以下	×	教育委員会調査より
			女子	※ 9.4%	※ 10.1%	現状値以下	△	〃
		中学1年	男子	※ 11.2%	※ 13.6%	現状値以下	△	〃
			女子	※ 10.3%	※ 12.4%	現状値以下	△	〃
	やせ（BMI < 18.5）の女性の割合	20代	12.2%	★ 41.5%	現状値以下	-	ヤング健診実績による	
肥満（BMI ≥ 25.0）の男性の割合	20～39歳	22.4%	★ 36.4%	現状値以下	-	ヤング健診実績による		
	40～64歳	25.5%	33.1%	現状値以下	×	KDBシステムより		

○食育推進計画

【基本目標】

指標	H28 現状値	R3 現状値	目標値	評価	
食育に関心を持っている市民の割合	76.1%	75.3%	90%以上	△	

【分野別目標】

分野	指標		H28 現状値	R3 現状値	目標値	評価	
食の基礎をつくる	朝食を毎日食べる人の割合	小学生	※ 95.0%	※ 93.3%	100%に近づける	△	食育に関するアンケート【教育委員会】
		中学生	※ 87.9%	※ 89.6%	100%に近づける	△	食育に関するアンケート【教育委員会】
		高校生	83.7%	74.6%	100%に近づける	×	
		20～40歳代	69.5%	66.8%	100%に近づける	△	
	主食・主菜・副菜をそろえて食べるのが1日に2回以上ほとんど毎日ある人の割合	高校生	41.5%	46.2%	70%以上	○	
		成人	60.5%	54.8%	70%以上	×	
	減塩を意識している人の割合	成人	70.5%	68.0%	100%に近づける	△	
食に感謝する	地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸使いなどの食べ方・作法を受け継いでいる割合	成人	53.8%	57.3%	60%以上	○	